

以下の問題文が正しければ、解答用紙の○を、誤っていれば×をマークしなさい。

- 1 復元とは機能を元に戻すことであり、改良とは材質や構造を変え、弱点を改善することである。
- 2 故障モードには、断線、変形、クラック、摩耗などがある。
- 3 工程能力とは、定められた規格限度内で製品を生産できる能力のことである。
- 4 自主保全活動には、不安全行動の排除は含まれていない。
- 5 TPM においては、あらゆるロスをゼロにする「ゼロ指向」が大切な考え方である。
- 6 マイクロメーターは、直射日光程度であれば精度に影響はない。
- 7 微欠陥は、突発ロスを引き起こすことが多い。
- 8 定点撮影方式は、活動の効果を定量的に表したいときに用いる方式である。
- 9 ボルト、ナットの合マークは、ゆるみが容易に発見でき、即座に増締めができるように、ひと目で見られるよう工夫をしたものである。
- 10 FTA とは故障モード影響解析と呼ばれる解析技法のことである。
- 11 日常点検によって、劣化部品を見つけて交換することは予防保全にあたらぬ。
- 12 外段取りとは、段取り作業のうち、機械設備の運転を止めなければできない型・工具、治具類の交換などの作業をいう。
- 13 制御盤、操作盤、中継ボックス内部の汚れやチリなどの有無は、重要な点検ポイントの1つである。
- 14 呼び径 12mm のボルトを増締めするときは、補助パイプを使って締め付ける必要がある。
- 15 自主保全体制づくりとは自分の設備は自分で守れる、設備に強いオペレーターづくりである。
- 16 自主保全第7ステップ(自主管理)には、第1～第6ステップまでのすべての活動が入っている。
- 17 設備の「本質安全化」のためには、フェイルセーフ化とフルプルーフ化が有効である。
- 18 5S とは、整理、整頓、清掃、清潔、診断のことである。

出題サンプル 自主保全士検定試験
正答例【2級 学科試験】

No	正解
1	○
2	○
3	○
4	×
5	○
6	×
7	×
8	×
9	○
10	×
11	×
12	×
13	○
14	×
15	○
16	○
17	○
18	×

※無断複製転載を禁じます